

鳥取県立鳥取看護専門学校における学校運営評価(自己評価)の結果

H29. 9月実施

※評価尺度 : 5)よい 4)ややよい 3)普通 2)やや不十分 1)不十分

内容	評価項目	評価結果	評価の根拠	今後の課題
① 学校経営	1 学校のビジョン及びそれを実現するための目標を策定しており、その目標が教職員に理解され、教職員の提案を活かしているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育理念・教育目的・教育目標を達成するために、組織ミッションを毎年度作成している。 単年度組織ミッションは、職員会議で年2回評価し、職員が問題や課題を共有すると共に改善策の検討を実施している。 組織ミッションは、H20年度から鳥取県ホームページに、H25年度から学校ホームページに掲載している。 また、組織ミッションは数値目標としており、客観的な評価ができるように工夫している。 各職員が、組織ミッションと自分の担当業務との関連付けを行い業務が実施できるように、キャリア開発シートを作成する際に組織ミッションを意識して記載・評価している。 教育環境の充実を図るため、施設整備(鳥取育園の跡地利用や実習室の拡充等)に関する「あるべき姿」を作成し、H27年度より県庁医療政策課と協議を重ねている。その成果として、中央病院の新築に伴う冷暖房工事、ライフライン工事は、H28年度に予算獲得済み。 	<ul style="list-style-type: none"> H27. 5月に策定した「施設整備のあるべき姿」の実現に向けて、県庁医療政策課等の関係機関と協議を重ねて、課題を整理し、「あるべき姿」の実現に向けて努力する必要がある。 中央病院の新築に伴う冷暖房工事、ライフライン工事がH29年度中に完成するよう、工事の進捗管理を行い、年度内の完成を目指す。
	2 目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 単年度組織ミッションを基に評価を実施している。 組織ミッションの評価は、職員会議で行い、課題整理や改善策を検討している。 また、評価結果は県ホームページに達成度(数値目標)として掲載している。 組織ミッションや教育目標等の評価は、10月、3月に実施し、次年度の計画に反映している。 	
	3 学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、外部にも公表しているか。また、評価結果をもとに改善計画を策定しているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> H26年度から、学校評価(授業評価(講義・演習・実習)・学校運営評価)を教職員全員で実施している。 また、H26年10月には、学生による学校評価アンケートを行い、学生の意見を聴取し、課題への改善策について、学生への説明会を開催した。 なお、学生からのフランクな意見を聴取するため、H26年度とH28年度に鳥看川柳を募集した。多くの学生から投句があり、優秀者には、校長賞等の表彰を行った。 学校運営評価、授業評価(講義・演習・実習)、学生による学校評価アンケート、鳥看川柳の結果は、H26年度からホームページにアップしている。 毎年度、外部関係者(県監査委員会・県会議員等)に、教育内容や運営経費等の定期監査を受けている。 また、年に2回程度、学校運営会議(県主管課・実習病院等)で学校の問題や課題を協議している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の継続実施が必要である。
	4 特色ある学校づくりを進めるために、教育内容等の充実にも努めているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 講義(統合分野 看護の統合と実践Ⅰ・Ⅱ(各30時間))については、特徴的な教育方法(PBLテュートリアル教育)を取り入れて特色のある学校づくりに努めている。 PBLテュートリアル教育は、H25年度に県外先進校への視察、情報共有を実施し、課題整理や記録用紙等の改善を行った。 また、課題整理を踏まえ、H26年度には講義への教員配置を手厚く行うと共にチューターの役割を学ぶため、新たに赴任した教員に対して、先進地視察を実施した。 さらに、H27年3月には2年間の取組み内容をまとめて、池西静江先生を講師として教員研修を実施し、改善した講義内容への助言を得ると共に新たな教育方法の修得を図った。それらの検討・改善策を踏まえて、平成27年度からPBLテュートリアル教育の効果的な実践を図っている。 H26年度学校評価の検討結果から、本校の教育理念にある「主体的に学習する姿勢を育む」を達成するために、学生自らが考えるクラス目標を掲げてクラス運営を実施した。 H27年度は、基礎看護技術における看護実践能力の向上を図るため、基礎看護学における基礎看護技術(講義・演習)の見直しを実施した。その内容は、病院の新人研修の見学、H27年3月卒業生へのアンケート調査等の実施であり、講義・演習の内容や方法を分析・検討し、H29年度の教育内容に反映することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> PBLテュートリアル教育の充実のため、年度毎の見直し作業を今後も継続して行う必要がある。 各クラスの特性を踏まえたクラス運営が重要であるため、今後も学生自らがクラス運営に努力できるような意識の醸成が必要である。 基礎看護技術の向上は、臨床現場に求められており、今後も3～5年のスパンで教育内容の抜本的な見直しをする必要がある。
	5 校長のリーダーシップのもと、職員が一致協力し、組織的・機動的な学校運営を行っているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 教務会を定期的実施すると共に教務主任会を必要時に実施し、情報共有し、学校運営上の課題や重要事項を検討している。 毎年度、異動の有無にかかわらず、職員全員が引継書を作成し、各種業務や教科の引継ぎをスムーズにするよう工夫している。 教員の实習配置や授業担当科目は、教員の経験を踏まえた配置としている。 平成26年度は、実習要項の抜本的な検討を実施し、各実習の目的・目標と評価との整合性を図ることができた。平成27年度からは、実習要項を新バージョンとして活用すると共に、新年度版作成時期に内容の見直しを実施している 	

② 教育課程・教育活動	6	教育目標に、養成する看護師が卒業時において持つべき資質を明示しているとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 期待される卒業生像は、履修概要(シラバス)に記載している。 卒業時の到達目標の記載もある。しかし、卒業時の到達状況の客観的評価はできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業時の到達状況の把握が必要である。他校の実態を把握し、方策を検討する。
	7	教育課程は、教育理念・教育目標と一貫性のある内容になっているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程は、H21年度の新カリキュラム作成時に検討した。毎年の履修概要(シラバス)作成を通して、授業時間数や講師の見直しを実施している。 教育内容については、領域担当が見直し、教務会で共有している。 H25年10月4日実施の中国四国厚生局指導調査において、実習目的・目標と実習評価の整合性を図るよう指導を受け、H27年度から改正できるようH26年7月～8月に実習要項抜本的な見直しを実施した。 	
	8	定期的に教育課程の評価を組織的に行い、時代の要請、変化にあったものに修正しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程は、H21年度から新カリキュラムとした。 教育課程は、教育理念に表現されたワードと整合性がとれたものになっている。 専任教員が担当する講義・演習・実習は、毎年度、各領域毎に評価し、講義・演習・実習の内容に反映させている。 また、H25年度は、看護学関連の科目で、重複や刷新が必要な科目(看護管理・臨床看護総論等)の見直しを実施した。 しかし、基礎分野、専門基礎分野については、担当講師に任している部分も多く、抜本的な見直しを実施していない現状にあったが、H27年度～28年度にかけて、「基礎看護技術の学内演習方法の見直し」を教員研修テーマに取上げ、各領域での演習内容の重複や不足部分の洗い出し、病院の新人研修の見学、H27年3月卒業生へのアンケート調査等を行い、教育理念に合致した教育内容となっているかの検証を行った。その結果を基に、改善点をH29年度教育内容に盛り込み、運用している。 時代の要請にマッチするよう教育カリキュラムの見直しを行い、平成30年度から、在宅看護論実習に病院 地域連携実習(1日)、精神看護学実習に地域活動支援センター実習(1日)を組み込むよう関係機関と調整を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎看護技術の向上は、臨床現場に求められており、今後も3～5年のスパンで教育内容の抜本的な見直しをする必要がある。 H30年度から、在宅看護論、精神看護学が、新たな教育内容に改正できるように準備をする必要がある。
	9	シラバス(授業計画書)は、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 履修概要(シラバス)は、より見やすい様式になるようH25年度に様式を統一し改良した。その際、事前課題やサブテキストを具体的に記載することとした。 授業科目間の調整は、外部講師を含めてできる限り調整するよう努力している。 各専任教員は、講義の最初の時間に履修概要(シラバス)を活用し、講義の組み立てや目的などの系統的な説明を実施し、学生に履修概要(シラバス)活用の意識づけをしている。 H27年度から学生の履修概要(シラバス)活用促進を図るため、先輩からの声「7 先輩学生からのメッセージ」を追加し、学生の興味を引くように改良した。 また、外部講師にも履修概要(シラバス)「6 学生へのメッセージ」を丁寧に記載していただくよう依頼を行った。 履修概要(シラバス)に「先輩学生からのメッセージ」を追加した評価(H29. 9月実施)は、1年生4. 0と、例年より高率であった。 	<ul style="list-style-type: none"> H27年度からシラバスに「先輩学生からのメッセージ」を追加し、シラバスの積極的な活用を促しているが、今後も学年ガイダンスが、年度初めのオリエンテーション以外にも折に触れて、シラバスの活用方法について周知することが必要である。

② 教育課程・教育活動	10	授業の一貫性を確保するため、1科目の授業担当者数を最小限にするとともに、担当者間の連携がとれているか。	3	・専門分野については、外部講師が複数で教授している科目もあるため、各科目の担当教員が教育内容の調整を図っている。	・1科目の授業担当者を最小限とする努力が必要である。
	11	効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。	3	・学習の順序性を考慮して、時間割を作成している。 実習との関連を含めて講義の計画を立案したり、学生の負担を考え、複数の演習が重ならないように配慮したり、学生のレイネンスに合わせて演習を研修として組み入れたりと、時間割の作成に配慮している。 ・時間割は月末に配布することとなるが、認定試験や学校行事等、重要な計画は、早期に学生掲示板に記入し周知している。	・時間割の作成が早期となるよう、今後も病院職員等との調整を努力する。
	12	授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善しているか。	3	・年度毎に重点授業を定め、授業内容の検討を実施している。 平成26年度から、PBL教育は、授業終了後の担当者ミーティングを重ねると共にグループ発表会に教員全員が参加し、授業の達成度を確認し、意見交換を図っている。 ・H26年度から授業評価・演習評価結果(学生アンケート)の分析を踏まえて、教務会において、基礎看護技術講義や演習のチェック項目や評価基準等の共通認識を図ると共に、演習終了後の意見交換を活性化している。	・今後も授業研究等を実施し、授業内容や指導方法の工夫について検討する必要がある。 ・教員が年度末に、各自で実施している授業評価を共有し、教育内容や方法等を検討するための「検討会」を開催する必要がある。
	13	未修了科目の原因分析を教員側と学生側とで実施し、対応策を講じているか。	4	・学習面で支援が必要な学生の把握を行い、必要時にその原因について、学生自らが振り返ることができるような関わりを意識して、学生指導を実施している。 ・未修了科目の履修の方法など、学生や保護者を交えて、説明している。 また、「再履修願」を提出してもらい、計画的な履修が可能となるよう意識付けを図っている。 ・出席状況の確認をガイダンス担当者が行い、遅刻や欠席の多い学生への指導を行っている。	
	14	実習目標に沿った病棟の選択及び、学習環境・指導体制が整っているか。	4	・現在、実習を依頼している病院は4病院、訪問看護ステーションなどの施設は40施設あるが、丁寧な実習指導をしていただいている。 実習施設は多岐にわたるが、どの施設も快く受けていただけており、現在のところ、実習場所の確保に困ることはないが、今後、訪問看護ステーションの実習配置に苦慮する可能性がある。 ・実習では、学生の学習進度や理解度に合わせた指導をしていただいている。 また、実習の開始前・終了後に指導者会を開催し、学生レベルの向上のため、検討を実施している。 ・実習環境は、様々で有り、学生カンファレンスルームのないところもある。	・問題が生じたときに、迅速に対応できるよう、日頃から学校と実習施設指導者との連携強化が必要である。
	15	学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価について公平性・妥当性が保たれているか。	4	・評価基準・評価方法は、履修概要(シラバス)などに掲載して公表している。また、講義・演習・実習オリエンテーションでその内容を具体的に説明している。 ・実習評価は、教員と実習指導者で評価するように努めている。 ・演習のチェックの結果は、学生に口頭で説明し、評価の根拠も伝えて、返却している。 ・演習・実習について、毎年評価について見直しを実施している。	
	16	実習における患者への倫理的配慮に関するガイドラインを作成し、患者等の同意を得た上で、実施しているか。	4	・ガイドラインを作成し、実習オリエンテーションにおいても説明を行っている。また、履修概要(シラバス)や実習要項に掲載している。 ・学生の受持ちについて、患者から、文書での同意を得ている。	
	17	実習において、学生が関係したインシデント等を把握・分析するとともに、改善策を講じているか。	4	・インシデントの発生時には、事故報告ルートに沿って、指導者や実習責任者等への報告は必ず実施している。 ・改善策の検討については、指導者と学生、教員と学生の二者の場合が多い。 ・領域別実習中のカンファレンスで、事故防止についてのテーマを取り上げ、教員・指導者・学生の三者で、話合うこともある。 ・必要時、他の学生への情報提供や注意喚起を実施しており、予防策や医療安全の考え方を再確認している。	
	18	実習指導者と教員の役割を明確にしているとともに、実習指導者と教員の協働体制を整えているか。	4	・実習施設と定期的に指導者会を開催し、実習状況の報告や実習内容の依頼を行っている。 ・受持ち患者の選択について、指導者と事前の打合せを行っている。 ・実習指導者と教員の役割は、文章化されており、実習要項に記載している。 ・日々の指導場面において、教員と臨床指導者が情報共有すると共に評価も共同でつけている。 ・H27年度から、主たる実習病院からの要望により、学生の実態と指導方法についての看護教員による講義を実施しており、指導方法についての共通理解を深めている。	
19	学生による授業評価を実施し、授業の改善に努めているか。	3	・授業評価(講義・演習)は、H24年度までは、専任教員各自が学生アンケートを実施し、結果を分析し、教授方法の改善に努めていた。 H25年度からは、学校として統一したアンケート様式で評価を開始した。H26年度からは、7月～8月に前年度の実績をとりまとめ、学校としての改善点を検討している。 ・非常勤講師の授業評価は、未実施である。中には、感想を書かせておられる講師もあるが、教員が把握できていない。 ・授業評価(実習評価)についても、H24年度までは、担当領域独自のアンケートを使用して評価を実施していたが、H26年度からは、学校として統一したアンケート様式で評価を開始した。 また、実習評価については、学生アンケート結果をまとめて、指導者会で検討していただいている。 ・H27年度からは、授業評価(講義・演習・実習)の結果をホームページに公表している。	・現在、授業評価を専任教員だけがやっているため、今後は、非常勤講師へも授業評価を依頼する。	

③ 入学・卒業対策	20	より多くの応募者を確保することに努めているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスの実施や県政たよりへの掲載等を行い、積極的にPRしている。H29. 6月実施のオープンキャンパスは、昨年度より参加者数が増加した(77名→89名の参加)。 ・H26年度は「鳥取 地域みっちゃんく生活情報誌 つばさ」に当校学生写真が掲載され、旧鳥取市全域に当校の存在をPRできた。 ・H26年度から、学生募集用ポスターを作成し、県内高等学校、実習施設、公共施設等に掲示を依頼している。また、ホームページ、学校案内を刷新し、若い年代にも魅力を持ってもらえるような広報となるよう工夫した。 ・毎年7～8月にかけて東部地区 推薦指定校の学校訪問を実施しており、高等学校への訪問時に在校生の近況を報告し、情報交換を行っている。 ・80人定員の看護学校の新設に伴い、本校における受験生の確保を促進するため、平成28年度入学試験から、試験科目の変更(数学Ⅰと数学Ⅱ一部→数学Ⅰのみ)を行うこととし、高等学校やホームページには、H27年2月に公表済みである。 ・より多くの学生確保を図るため、県庁広報課にアドバイスを受け、学生募集用ポスター、学校案内のデザイン等を抜本的に見直す予定としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内定着が期待される県外高等学校へのPRが必要である。 ・県内定着が期待できる兵庫県北部や鳥根県東部の高等学校へ学生募集依頼文を送付し、学生の確保を図る。 ・H31年度入学試験に向けて、受験生に興味を持ってもらうことのできる入学試験の媒体を県庁広報課の指導のもとに作成する必要がある。
	21	国試対策に個々の学生にあった指導・援助を実施するなど、教職員一丸となって取り組んでいるか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策の担当者を配置している。 ・H26年度は、解剖学、病態治療学に加えて、社会保障制度の特別講義を実施した。 ・教員は、意図的に授業の中で国家試験関連問題を解かせており、知識の定着に努めている。 ・H27年度から「看護師国試問題Web」を導入し、外部講師への講義依頼の際に、国家試験問題を情報提供する等、国家試験を視野に入れた教育内容としている。 ・模擬試験結果を分析して、成績不良者には個人指導を実施している。 ・看護師国家試験不合格者があれば、卒業後も模擬試験の情報提供や受験手続の指導を実施している。 ・H26年度から、低学年からの学習を促すため、1年生に夏季休暇時の課題や国試オリエンテーションを実施し、学習の仕方を説明している。 ・国家試験全員合格を目指して、外部業者の国家試験対策特別講義を3年生に対して、12月に計画し、国家試験対策の強化を図っている。 ・国家試験の合格率 H23年度 100% (全国平均 90.1%) H24年度 95.6% (全国平均 88.8%) H25年度 97.6% (全国平均 89.8%) H26年度 100% (全国平均 90.0%) H27年度 94.3% (全国平均 89.4%) H28年度 97.1% (全国平均 88.5%) ・教員の力量形成のため、県外研修(国家試験セミナー)に 2～3回/年、複数の教員を派遣し、対策強化に努めている。 ・H17年度より実施している「保護者会」において、学習支援への協力を依頼している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に全員合格できるよう成績不良者への個別指導の更なる強化が必要である。 ・国家試験全員合格を目指して、外部業者の国家試験対策講義を、3年生は12月に計画。また、2年生は、解剖生理学の基礎的知識の定着を図るため、10月に計画し、国家試験対策の更なる強化を図る。
	22	質の高い、適性を備えた卒業生を多く輩出するための努力を行っているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回程度 定例の面談を持ち、それに加えて、必要時に面談をもって学習支援を行っている。 ・メンタル面で悩みのある学生に対しては、学校カウンセラーとの面談を勧めている。 ・新入生に対しては、入学直後(4月)に、カウンセリングについての特別講義を実施し、カウンセリングの意義について、動機付けを図っている。また、臨地実習や国家試験等が本格化する3年生に対しても4月の段階で、カウンセリング特別講義を実施している。 ・学生の特性を踏まえて、H27年度、H29年度に「デートDV予防学習」を実施し、H25年度から「いつかはパパママ事業」の特別講義を毎年度実施している。 ・また、卒業後、ワークライフバランスの視点を兼ね備えた看護職員として勤務できるように、H26年度から鳥取労働局に依頼し、労働基準法等の制度や働き方を学ぶ特別講義を開始した。 ・H26年度入学生から、入学前学習(数学・国語・理科 プレトレーニング)を課し、入学後4月中旬に確認テストを実施した。その結果を分析し、日頃の学習指導に活かすとともに、必要時に、再度の確認テストを実施している ・H29年度は、1年生に対して「解剖生理学クリアブック」の問題をノートに解いて、毎週提出させ、低学年からの知識の定着と家庭学習の継続に繋げている。 ・演習(技術試験 8項目)については、認定試験に合格する水準に達するまで、担当制で、丁寧な個別指導を実施している。 ・日頃から、より専門的な知識や技術を習得するため、非常勤講師として認定看護師や専門看護師等の有資格者に講義を依頼している。 	
23	卒業生の県内就職率を高めるよう努めているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年から県主催就職ガイダンスのPRを実施しているが、参加者は少ない。 ・一方、各施設が実施するオープンホスピタルの積極的な参加勧奨も実施しており、1年生から多くの学生が参加している。 ・鳥取県修学資金のPRを新入生のオリエンテーションに組み込み、貸付を勧奨しており、貸付者は年々増加している。 【鳥取県修学資金貸付者率(各年4月現在)】 H24年度実績 58人/129人 45.0% H25年度実績 73人/119人 61.3% H26年度実績 88人/116人 75.9% H27年度実績 102人/121人 84.3% H28年度実績 98人/121人 81.0% H29年度実績 89人/127人 70.1% ・鳥取県修学資金貸付者率の増加に伴い、県内就職者率も増加している。 【鳥取県内就職者率(進学者・県外者を除く)(各年3月31日現在)】 H23年度実績 21人/27人 77.8% H24年度実績 35人/40人 87.5% H25年度実績 31人/36人 86.1% H26年度実績 32人/34人 94.1% H27年度実績 27人/27人 100.0% H28年度実績 30人/31人 96.8% ・既卒者や中途退職者のうち、学校に相談のあった卒業生に対して、親身に相談に乗っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当校卒業生の中でも離職する者がある。その実態を専任教員間で共通認識しておく必要がある。 	

④ 学生生活への支援	24	学業継続のための支援体制が整っているか。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・入学早期にカウンセリングの活用について、当校カウンセラーが講義を実施している。 ・カウンセリングの日程は、事前に白板に掲示している。また、カウンセラー作成の「スクールカウンセラーたより」の発行を行い、カウンセリングのPRを図っている。 ・休学者等には、本人及び保護者に定期的な連絡を取り、丁寧な復学支援を行っている。 ・感染症対策として、入学時に、抗体価検査(麻しん・風しん・流行性耳下腺炎・B型肝炎・クオオンテイフェロン)を実施し、抗体価のない学生に対しては、予防接種を積極的に勧奨している。 また、インフルエンザについては、毎年、11月頃に全学生・職員に対して、予防接種を勧奨している。 ・H23年4月1日から敷地内禁煙とした(中央病院の敷地内禁煙と併せて実施)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の関係で、カウンセリング会場が職員室前であるため、学生が入室しにくい雰囲気がある。 長期目標として「施設整備のあるべき姿」を策定しているが、療育園跡地利用に伴い、カウンセリング室の位置についても検討が必要である。
	25	進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望のとおりまとめを2年生の3月に、個別面談を3年生の早期に実施している。 また、就職意向調査をもとに、関連する就職情報を個別に提供している。 ・H27年度から図書室の就職・進学コーナーをリニューアルし、先輩からのメッセージを掲示するなど、情報提示の方法を工夫している。 また、進路・進学等の悩みを解消するため、図書室に「つぶやきボックス」を設置し、タイムリーに助言できるように配慮した。 ・数年前から、中央病院看護師(本校卒業生)が来校し、先輩看護師と学生との「語る会」を毎年実施し、職場の様子等を聞く機会を設けている。 ・就職試験(面接)に自信を持って望むために、3年生4月の早期に、講演「面接試験の秘策を学ぼう」を実施し、面接の心得、服装、身だしなみ、言葉づかい、面接でのNG回答等の知識を修得する機会を設けた。 ・H27年10月実施の学生による学校評価アンケートにおいて、学生より「進路選択の幅が広がるよう、就職、進学についての説明を充実してほしい。」との要望があるため、4月オリエンテーションの場を活用して、学年毎に、分かりやすい資料を作成し、具体的な説明を実施した。また、H28年4月から、3年生4月の早期に、講演「就職に向けて、自己紹介書の書き方を学ぼう」を実施し、就職のための応募書類の書き方、自己紹介書(エントリーシート)の記載及び添削の知識を習得する機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職に関しては、外部講師による特別講義として、H25年度から面接試験、H28年度から履歴書の書き方について、ハローワーク職員等に協力を依頼し、実施した。 今後は、就職試験に万全の体制で臨むことができるように模擬面接を実施する等、学生の特性を把握して、次年度の計画を検討する必要がある。 ・様々な分野で活躍している卒業生を招き、その活動を紹介し、働く喜びや進路選択の一助となるよう学習会を企画する。
	26	卒業生への支援を継続的に行っているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口は固定していないが、卒業生の出入りはある。その都度教員が対応している。 ・学校として、卒業生への支援事業は実施していないが、相談があれば対応している。 ・卒業生に対して、図書室や情報科学室の利用を許可しており、看護研究の側面的支援を行っている。 	
	27	サークル活動やボランティア活動など、学生の自主的な活動を支援しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学生サークル活動を含めた自治会担当は、教員の担当制をとっており、指導体制は整っている。 ・サークル活動は活動実態の把握のため、H26年度より、届出制とした。 ・H29年4月現在、4団体が活動している。 ・H26年度に鳥取県において「鳥取県手話言語条例」が創設されたことから、1年生に特別講義を導入した。その結果、手話サークル新設の運びとなった。 ・H27年度からサークル活動の活性化を図るため、後援会によるサークル活動助成制度の新設を行った(1サークル2万円程度)。 ・サークル活動団体の交流会は実施していない。 	

⑤ 管理 運営 ・ 財政	28	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進捗管理を行っているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の予算要求(報償費・旅費・実習施設謝金・図書備品・教材備品・教員研修旅費など)を前年度に実施し、必要な予算は確保できている。 ・教材備品は、長期計画を策定し、計画的に配備している ・年度途中で急速必要となった修繕経費等のうち、学校運営費で対応できない場合は、福祉保健課や医療政策課に相談し、執行できるように工夫している。 ・節電やコピー用紙裏面利用などを推進しており、経費削減の努力をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H27年7月実施の保護者会アンケートにおいて、「備品が古い、品不足である。」との意見もあり、備品の耐用年数を確認し、順次更新していく必要がある。
	29	学生や教職員等の人権や個人情報の保護について十分な配慮がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・H25年度に個人情報保護指針、個人情報保護取扱い規定を作成した。 ・また、H27年度から個人情報保護指針、個人情報保護取扱い規定を履修概要に掲載し、注意喚起を図ると共に、実習前には幾度となく、個人情報保護について説明している ・実習記録は、H26年度に職員室ロッカー(鍵付)を1つ増やし、職員室に2つ整備して保管している。 ・H27年度から個人情報保護指針、個人情報保護取扱い規定を履修概要に掲載し、注意喚起を図っている。 	
	30	災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアル(H18年8月作成)、消防計画(H18年4月作成)などの整備を行っており、毎年見直しをして使用している。 ・危機管理マニュアルは、学校独自の物は作成していないが、県作成の物を使用できる。 ・防災訓練は、入学時早期に、毎年1回実施している。 ・非常時の食料備蓄として、H27年7月にビスコ30缶・ナビスコ30缶・飲料水168本を備蓄した(5年間有効)。 ・交通安全については、H26年5月に警察職員による講演を実施しており、交通安全週間の際にはチラシやポスターを掲示し、学生・職員に注意を呼びかけている。 ・毎年、4月に職員連絡網を作成し、連絡体制を明らかにしている。 ・不審者に対しては、本校玄関に鳥取養護学校警備員が、8:00~16:00まで、常駐しており、抑止力となっている。 ・H26年度に防犯グッズ(さすまた1個、カラーボール2個)の整備を行った。 ・また、H26年9月には、1年生と職員を対象に、防犯研修会を鳥取警察署に依頼して実施した。 ・H29年3月に防犯カメラ(5か所)を設置した。また、H29年4月1日付けで「防犯カメラ設置及び運用規程」を作成し、学生への周知を図る。併せて、防犯カメラ作動中の掲示(3か所)を行い、防犯体制の確立を図っている。 ・地震対策を視野に入れ、3年計画(H25年度~27年度)で、突っ張り棒の整備を行った。また、H29年度に耐震用ハーディガードを設置し、教材物品の落下防止を図った。 ・H28年10月に発生した鳥取県中部地震の教訓から、全学生に対して非常持出しグッズ(携帯ライト・ホイッスル・生理用品・非常食等)を学校ロッカーに配備させた。また、学校借上げの宿泊施設に水・ビスコ・懐中電灯等の整備を行った ・H29年度から職員室に救急箱、拡声器・ラジオ等の持出し物品を整備し、毎月点検を実施している 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震、弾道ミサイル落下に備えて、学生及び職員にヘルメットを配備するなど、今後も臨機応変に危機管理体制の確立に努力する必要がある。
31	学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・H27年4月から、図書室に意見箱を設置した。 ・意見箱に投函された意見や要望に対して迅速な対応を心がけており、対応結果は掲示板に掲載している。 ・H26年10月に学生による学校評価アンケートを実施し、要望や意見を聴取した。その対応策は、アンケート集計結果と共に説明会を開催して学生に周知を図った。 ・H26年3月に、図書室に関する学生アンケートを実施した。 ・その中で、図書購入希望や図書室利用時間等の希望について対応した。しかし、個人学習機の設置等、施設改修が必要な要望については、図書室が狭隘で予算措置も困難なため、対応できていない。 ・H25年4月に、卒業式服装について、学生からの要望が有り、自治会役員と相談の上、学生アンケートを実施すると共に後援会の承諾を得て、自由な服装に変更した。その学校の対応を学生は、大変喜んでる。 ・H26年度とH28年度に、学校川柳を募集し、間接的に学生の声を把握するよう努めた。 ・H17年度から保護者の要望により、「保護者会(1回/年)」を実施している。 ・開催にあたり、出欠票に意見や要望記載欄を設け、意見聴取している。なお、会の進行は後援会役員の協力を得て、学年懇談会を運営しており、意見が出しやすい雰囲気づくりを図っている。 ・また、保護者会で得た保護者からの意見や要望は、学校の問題として取り上げ、迅速に誠意を持って対応している。 		

⑥ 施設設備	32	校舎等は耐震性に優れ、安全が確保されているとともにバリアフリーなど障害者の利用に配慮された構造になっているか。	1	・耐震診断はクリアできている。 ・校舎が2階にあるが、エレベーターがない(校内に段差はない)。 ・トイレの入口は狭く、車椅子で入る事は困難。車椅子に対応したトイレの設置がない。 ・教室、研修室の床がひび割れ、危険な箇所があったため、H27年8月に、3つの教室・研修室の床張り替え工事を実施し、安全に配慮した構造に改修した。 ・学生の安全確保のため、H28年度にAED装置(ボックス付き)を設置した。	・車椅子で入れるトイレの設置等、障がい者の利用に配慮した施設に改修することが必要である。 ・長期目標として「施設整備のあるべき姿」を策定しているが、鳥取療育園跡地利用を行い、バリアフリーに配慮した施設整備の実現を図る必要がある。
	33	教育目標達成に必要な施設設備及び教育内容に相応しい教材が整っているか。	3	・H25年度は、研修室オーディオ装置、情報処理室パソコンの新調、冷暖房完備等、積極的に整備を行った。 ・教育教材(モデル人形・模型等)は、計画的に予算要求して、順次整備している。 ・H27年度から看護研究に活用するため、「最新看護索引Web」を導入し、学習環境を整備した。 ・教室以外に自由に使える部屋がなく、グループワークや自己学習等、学生が自主的に学習するための設備となっていない。	・H27年7月実施の保護者会アンケートにおいて、「備品が古い、品不足である」との意見もあり、備品の耐用年数を確認し、順次更新していく必要がある。
	34	学生のための福利厚生施設は整っているか。また、学生の施設利用に当たっては学生の意見が反映されるとともに積極的に活用されているか。	1	・学生ラウンジ等の福利厚生施設がない。 ・体育館は、養護学校から借用しており、学生が自由にスポーツをする場所がない。 ・休職中の施設利用は、可能としている。 ・平成29年度に、高身長男子学生の体型にマッチした机・椅子の整備を行った。	・学生のためのラウンジや自治会室等の福利厚生設備が必要である。 ・長期目標として「施設整備のあるべき姿」を策定しているが、療育園跡地利用を行い、学生のためのアメニティ設備の充実を図る必要がある。
	35	図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。	3	・図書整理は、学生の協力のもとに、年3回行っている。 ・H29. 4. 1現在、雑誌26誌、書籍4, 798冊と国の指定基準はクリアできているが、古書が多い(ここ10年に購入した本は、1, 500冊程度と3割に満たない)。 ・司書等の管理者はいないが、司書の資格を有したボランティア(本校卒業生)が積極的に図書整理をしてくれている。 ・図書の予算(備品図書経費)は、毎年50万円程度であり、その他、後援会費などを活用し購入している。 ・学習教材用ビデオ・DVDを学生が有効活用できるように、H26年度に保管場所を講師控室から図書室に移動すると共に、一覧表を作成した。 ・H26年3月に、図書室に関する学生アンケートを実施し、図書購入希望や図書室利用時間等の希望について対応した。しかし、個人学習機の設置等、施設改修が必要な要望については、図書室が狭隘で予算措置も困難なため、対応できていない。	・図書室に個人学習のスペースの確保が必要である。 ・長期目標として「施設整備のあるべき姿」を策定しているが、療育園跡地利用を行い、図書室以外に、個人学習のできるスペースの確保を図る必要がある。 ・図書の購入(学生の使用頻度の高いマニュアル本等)を計画的に行う必要がある。
		36	実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い、十分にその機能を果たしているか。	2	・実習室が狭く、ベッド14台しか配置できず、学生4人で1ベッドを使用している。 ・教育教材(モデル人形・模型等)は、医療再生基金等を有効活用し、計画的に予算要求して、順次整備している。
⑦ 教職員の育成	37	学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っているか。	4	【人権研修等】 ・人権研修、不当要求研修など、職場内研修を年1回実施している。なお、研修は、全員参加を原則としている。 ・県は、人権研修を職員一人あたり年2回以上受講するように定めており、本校受講率は100%である(他の所属より高率)。 【PBL研修】 ・H25年度は、PBL教育の充実のため、県外先進校視察(京都看護大学校 2回)に6名の教員を派遣した。 また、H26年度も新たに赴任した教員を対象にチューター役割を学ぶため、県外先進校視察(京都看護大学校 2回)に4名の教員を派遣した。 ・H27年3月には、PBL教育の更なる充実を図るため、県外から講師を招き研修会を実施した。 【教育研修】 ・H25年度は、新たな教育方法の学習のため、県外先進校視察(あじさい看護福祉専門学校)に2名の教員を派遣し、実習指導技術の向上のため、ポートフォリオの活用やルーブリック評価の実際を学んだ。 ・H27年度は、「基礎看護技術の学内演習方法の見直し」を教員研修テーマに取上げ、各領域での演習内容の重複や不足部分の洗い出し、病院の新人研修の見学等を行い、教育理念に合致した教育内容となっているかの検証を実施した。 ・H27年4月、職員研修として、パワーハラスメント研修を実施し、ハラスメントを行わないための基本的な心構えを学ぶと共に、ハラスメントの予防策や解決するための取組みについて学習を深めた。 ・H29年3月、臨地実習を依頼している実習指導者、専任教員を対象とした「教育研修会(看護教育に活かすアドラー心理学(理論編))」を実施し、好評を博した。引き続き、平成29年8月には、実践編を実施した。	・実習施設の実習指導者を対象とした教育研修を今後も計画し、実習指導者と専任教員の共通認識を図り、効果的な臨地実習となるよう努力していく必要がある。
	38	学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。	3	・伝達研修は実施していないが、復命書は必ず供覧している。 ・職員会議で、学んだことを情報交換している。	
	39	教員が計画的に臨床看護研修に参加できるよう支援しているか。	2	・新たに担当する科目について、実習施設での臨床看護研修を実施している。 H18年8月(5日間):訪問看護ステーション 教員1名 H21年8月(5日間):産婦人科医院 職員1名 H21年8月(6日間):精神科病院 職員1名 H22年8月(3日間):中央病院小児科 職員1名 H22年8月(5日間):精神科病院 職員1名	
	40	教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか。	1	・学会等で発表することはあるが、計画的でない。 ・研究指導経費(講師助言指導のための報償費)は予算措置している。	・計画的な研究活動が必要である。 臨床現場との共同研究も良いと思われる。
	41	教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度があるか。	3	・H26年度は、重点課題としているPBL教育について学生の学習発表会に全職員が参加し、意見交換を実施し、次年度の課題整理を行った。 ・新人教員に対して、講義や演習指導案への助言を実施しており、H29年度は、新人教員の講義を題材にして、授業研究を計画している。	・継続的に教員各自が担当する科目の授業研究を行い、教育内容の質の向上を図る必要がある。

⑧ 広報・地域活動	42	学校の存在を広く周知するため、積極的なPR活動を展開しているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス、学校訪問、学校ホームページへの掲載、県政たよりへの掲載など、あらゆる機会を活用して、積極的にPRしている。 ・H26年度は「鳥取 地域みっちゃく生活情報誌 つばさ」に当校学生写真が掲載され、旧鳥取市全域に当校の存在をPRできた。 ・H25年度からクリアファイルの作成、H26年度から、新たに学生募集用ポスターを作成し、県内高等学校、実習施設、公共施設等に掲示を依頼している。 また、ホームページ、学校案内を刷新し、若い年代にも魅力を持ってもらえるような広報となるよう工夫した。 さらに、H26年度から学校PR用ポロシャツを全職員が作成し、出張や研修にも着用しており、大変好評である。 ・学校行事は、必ずマスコミ関係者に資料提供を行っており、取材があった場合は、丁寧に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの継続的な更新が必要である。 ・学生の学びが、保護者や受験生に理解してもらえるよう新しい情報を随時、更新していく必要がある。
	43	ホームページは適時更新し、必要な情報を掲載するなど内容の充実に努めているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・H26年8月に学校ホームページのリニューアルを実施し、学校行事の報告や学生の声など、若い年代が興味を引く内容に変更した。 ・入試情報など、必要時にアップしている。 ・在学生用や卒業生用のサイトがない(授業時間の変更や履修概要の掲載等)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの継続的な更新が必要である。 ・学生の学びが、保護者や受験生に理解してもらえるよう新しい情報を随時、更新していく必要がある。
	44	地域社会の一員として、地域への貢献・奉仕活動を行っているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は、「ボランティア活動」を科目として位置づけ、1年～2年生で1単位(15時間)の単位認定を実施している。 ボランティアの意義や目的について、1年次に講義を実施し、その後、自らが選択したボランティア活動へと参加し、積極的に地域貢献を行っている。 ・小中学校や病院等へ沐浴人形・DVD等の教材備品を貸出しており、教材備品の有効活用を図っている。 ・卒業生や病院関係者に図書室の開放を行っている。 ・毎年度、鳥取空港災害救助訓練に模擬患者役として2年生が協力している。 ・学校として、公開講座や施設見学などの取組みは実施していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の存在をPRするためには、公開講座等の取組みが必要である。 たとえば、小学生を対象とした看護師の職業体験(看護キッズニア)の実施。 ・授業参観の実施が必要である。 保護者や地域住民を対象とした公開講座の実施。
	45	行事等において地域との連携・協力関係が確保されているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に地域住民が参加する機会を設けていない。 ・各関係団体等の事業に協力している。 H24年度～:実習病院 看護研究発表会の助言者、実習指導者会での指導方法についての特別講義 H23年度～:小学校「性教育」、中学校「仕事セミナー」 H16年度～:鳥取県実習指導者養成講習会(1回～2回/年) 講義やグループワーク指導者教員4名～5名 毎年、1月実施の学生研究発表会に実習施設指導者に参加していただき、助言を受けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、学校として、地域貢献できる方法の検討が必要である。